

平成30年は、明治維新から150年経た節目の年です。1月からは大河ドラマ「西郷どん」の放映も始まり、この150周年をきっかけに鹿児島県がますます盛り上がりを見せています。南薩地域の4市にも明治維新を感じることができるゆかりの地があると聞き、地元のガイドさんと一緒に訪ねてみました。

没後450年 ^{じっしんこう}日新公が眠る竹田神社 南さつま市 加世田いにしへガイドと巡る旅

島津忠良について

日新公と敬われた島津忠良は、1492年、伊作(現在の日置市)で誕生しました。西郷どんが活躍した時代からは3世紀ほど時代がさかのぼります。忠良は、仏教・儒教・神道を極め、学問や武芸にも秀でた名将で、万之瀬川の架橋や青少年教育の推進などの善政を行いました。島津家発展の礎を築いたことから「島津中興の祖」と言われています。忠良は、家臣への返事を歌で返すほど、歌が大好きでした。



島津忠良というは歌の説明板



いにしへの道

いにしへの道

忠良を祭った竹田神社の境内周辺には「いにしへの道」があり、「日新公いろは歌」47首の歌碑が建ち並んでいます。

戦国時代の混乱時、道徳観・倫理観が必要であると感じた忠良は、人間として社会に生きる道を説いた歌を54歳までに書き上げました。それが「日新公いろは歌」です。「日新公いろは歌」は、口伝えで民衆にも広がり、歌が定着してきたとのことでした。

「いにしへの道を聞きても 唱へても
わが行ひに せずばかひなし」

「日新公いろは歌」の最初にある「い」で始まる歌です。「昔からの立派な教えをいくら聞いても、またどれだけ口先で唱えても、自分で実行しなければ何の役にも立たない。」という意味で、明治維新の原動力となった西郷どんら薩摩藩士の行動力の源となったのではないのでしょうか。薩摩藩の郷中教育の礎となった「日新公いろは歌」。21世紀となった現代でも、どの歌も共感できます。



日新公いろは歌の歌碑

島津忠良(日新公)の墓

1568年12月、忠良は加世田の地で77歳で永眠しました。「いにしへの道」の奥に忠良の墓があり、親しかった家臣2名とともに眠っています。現在でも命日には供養が行われています。近くには、忠良の妻と三男の島津尚久の墓所もあります。



島津忠良(日新公)の墓



加世田いにしへガイド (福元 拓郎さん)

加世田の麓・竹田神社周辺を中心にまち歩きを行い、日新公いろは歌等の案内をしています。3月下旬から11月上旬は、毎週日曜日に竹田神社前にガイドが立ち、案内をしていますのでお待ちしております。

NPO法人プロジェクト南からの潮流 0993-52-7829

<お問い合わせ> (*ガイド希望日の前日までに予約をお願いします。)

【加世田いにしへガイドも募集中!!】

明治維新150周年 南薩の旅

西郷どん上陸の地 枕崎市 まくらざき探検隊と巡る旅

「立志清右衛門」宅跡

1861年11月、潜居していた奄美大島から帰藩を命じられた西郷どんは、迎えのイサバ船(小型廻船)に乗り、シケの海を途中の島々に避難しながら翌年2月11日に枕崎港に到着しました。黒潮の流れと、満潮でも干潮でも船を簡単に接岸できる階段状のガンギ(雁木)があったことから、枕崎を上陸地を選んだとのことでした。西郷どんは枕崎の港役人「立志清右衛門」宅に宿泊し、翌日鹿児島藩庁に向けて出発しました。



「立志清右衛門」宅跡



西郷どんが上陸した枕崎港

ガンギ(雁木)

階段状の防波堤のことで、江戸後期の「三国名勝図会」という本に、西郷どんが上陸したと思われるガンギが描かれています。

現在の枕崎港内には西郷どん到着当時のもではありませんが、古い石造りのガンギが残っています。



三国名勝図会



階段状のガンギ



戦死者の名を刻んだ石碑

招魂塚(南方神社参道脇)

枕崎市誌や同市教育委員会によると、1877年に起こった西南戦争では、枕崎から約460名が出征し、125名の戦死者が出ました。生還した方々により、1880年に慰霊塔として招魂塚が神社参道脇に建立され、両脇の石碑には戦死者の名が記されています。



招魂塚

大河ドラマの放送を見て、西郷どんが上陸した地、枕崎にお越しください。

まくらざき探検隊では、明治維新のコースだけでなく、かつお節関連や火之神公園、平和祈念展望台、また、自然を巡るコースなど多数ありますので、ぜひご利用ください。

まくらざき探検隊 080-3139-8585
<お問い合わせ> ホームページ <http://tankentai.makurazaki.net/>

(※ガイド希望日の3日前までに予約をお願いします。)



まくらざき探検隊 (北川 忠武さん)



「西郷どん」ロケ地 南九州市 知覧武家屋敷庭園観光ボランティアガイドと巡る旅



ロケが行われた庭園(縁側は濡れ縁)

知覧武家屋敷群

昨年8月に大河ドラマ「西郷どん」のロケが知覧武家屋敷群で行われました。武家屋敷群にある7つの屋敷では、それぞれの屋敷の作りや庭園を楽しむことができます。

イヌマキの生け垣越しに母ヶ岳が遠望できる「借景園」。雨風を防ぐ外壁のない縁側の「濡れ縁」。和歌を詠むための盆栽を置く「切石の台」がある庭園もあります。



借景園



盆栽と切石



ロケが行われた武家屋敷の通り

武家屋敷の通り

ロケでは、幕末の町並みに近づけるため、武家屋敷の通りに大量の白砂を敷き詰め、屋敷の電灯や消火栓の看板など一時的に撤去され、妙円寺参りのシーンなどの撮影がありました。

門には両袖門と袖なし門の2種類があり、また、石積みには四角石と玉石の2種類があります。門や石積みの違いにも注目して歩いてみてください。



両袖門



石積み



イヌマキの生け垣

武士の暮らし

武家屋敷の庭園には、刀を洗うための手水鉢のような長方形の鉢があります。また、イヌマキの生け垣は、通りからの目隠しとなると同時に、屋敷内から通りの様子も監視ができ、当時の武士の暮らしを垣間見ることができます。



刀を洗うための長方形の鉢



知覧武家屋敷庭園観光ボランティアガイド(森 重忠さん)

知覧武家屋敷では、8名のガイドそれぞれの案内があり、観光客が何を学びたいか、観光できる時間がどのくらいなのかによって、案内の内容を変えています。何回いらっしゃっても知覧武家屋敷を楽しむことができますよ！

知覧武家屋敷庭園事務所 0993-58-7878

<お問い合わせ> ホームページ <http://chiran-bukeyashiki.com/>

(※ガイド希望日の7日前までに予約をお願いします。)

西郷どん逗留の地鰻温泉 指宿市 いぶすき西郷どんガイドと巡る旅

鰻池

鰻温泉に逗留していた西郷どんは、開聞岳へ狩猟に出かけたり、散歩や近所の子もたちと遊んだりしたそうです。

鰻池の名前は、「その昔、鰻池の水を利用して水田を造ろうとしたところ、池の底から大ウナギが横たわり、水が流れ出るのを塞いでしまった。村人がこれを切り裂いたところ、片身のまま池に逃げそのまま生き続けた。」と語り継がれていることに由来しているとのこと。



周囲が約4kmの鰻池



西郷どんから贈られたシャツ



いぶすき西郷どんガイドの法被

西郷どん逗留の家

1874年、西郷どんは、従者2名と犬13匹を連れ、福村市左衛門方に逗留しました。その折、佐賀の乱に敗れた江藤新平が西郷どんを訪れ援軍を求めましたが、西郷どんはこれに応じなかったとのこと。

西郷どんは逗留のお礼に愛用したシャツを福村氏に贈りました。「いぶすき西郷どんガイド」が着用している法被の縦じまは、お礼のシャツがモチーフとなっています。



西郷どんの逗留記念碑と像



スメ体験

スメ体験

スメとは、温泉熱を利用した天然かまどのことです。鹿児島弁の「すもる(煙がこもるという意味)」が訛って「スメ」と呼ばれるようになったといわれています。スメで蒸した温泉たまご、指宿産のオクラやスナップエンドウなど季節の野菜を味わうスメ体験ができます。

13匹の犬の像



スメで蒸したスナップエンドウ

鰻地区のまち歩きは、西郷どんゆかりの地を楽しむことに加え、スメ体験もできるコースとなっています。スメで蒸した指宿産の食材を味わう体験をしてみませんか。ぜひ、西郷どんゆかりの地を巡る「SEGO!!BUS」を利用して

お越しください。

5ページにも載っています。



指宿市観光協会 0993-22-3257

<お問い合わせ> ホームページ<http://www.ibusuki-segodon.jp/guide/>

(※ガイド希望日の前日までに予約をお願いします。)



いぶすき西郷どんガイド (上玉利 スミ子さん)

明治維新・西郷どんを詳しく知ろう！

いぶすき西郷どん館

1F 大河ドラマ館



©NHKエンタープライズ

大河ドラマのストーリーやその魅力を体感できます！

2F 特別企画展

西郷隆盛と海洋国家薩摩

—明治維新へ指宿が果たした役割—



西郷どんと指宿の関わりや、明治維新に指宿が果たした役割などに焦点を当てた展示です。



【期間】平成31年1月14日(月・祝)まで

【入館料】大人(高校生以上)500円

子ども(小・中学生)300円

※家族連れもしくは20名以上の団体は
大人400円,子ども200円

【開館時間】9時～17時(入館:16時30分まで)

【休館日】期間中は年中無休

【問合せ】0993-23-3153 さいごーさん

【所在地】時遊館COCCOはしむれ内
(指宿市十二町2290番地)

SEGO!!BUS —「西郷どん」指宿ゆかりの地巡りバス—

「いぶすき西郷どん館」や「鰻温泉」など西郷どんゆかりの地を巡る「SEGO!!BUS」が平成31年1月14日(月・祝)まで毎日運行中です。

1日5便運行しており、1回の乗車につき運賃は100円です。

西郷どんゆかりの地を巡るのに便利な「SEGO!!BUS」。ぜひご利用ください。

【問合せ】0993-23-3153 さいごーさん

(いぶすき西郷どん実行委員会)



バス停(鰻温泉)

南溟館 なんめいかん (枕崎市)

平成30年10月2日(火)～25日(木)の期間、西郷どんや西南戦争に関する資料及び明治期の生活の資料等を展示します。



【所在地】枕崎市山手町175番地
【問合せ】0993-72-9998

加世田郷土資料館 かせだ (南さつま市)

島津忠良(日新公)を中心とした資料(袈裟,御真筆,馬具,稚児大師像,孔子聖蹟の図屏風など)を常設展示しています。



【所在地】南さつま市加世田川畑2650番地1
【問合せ】0993-53-2111

ミュージアム知覧 みなみ (南九州市)

西郷どんは日本刀を多数所持したと言われています。そのうちの一本である「西郷南洲遺愛之一振」が常設展示されています。



【所在地】南九州市知覧町郡17880
【問合せ】0993-83-4433